

「おもてなし」は白く燃え尽きるか

重吉康史

近畿大学医学部 解剖学教室

この度、第二十回時間生物学会学術大会を主催させていただきます。学生時代からイベント好きですが、どちらかという裏方が向いているという性格、前面に出る大会長は荷が重すぎる。しかし、生来の楽天性でお引き受けしました。多くの方が演題出していただけであろうか、ご来場いただけるであろうか、ご招待に礼を失したところはなかったであろうか、懇親会はどのようにすれば皆様に喜んでいただけるであろうかなど、会期の一年前程から学会準備のことが頭を離れませんでした。面白かったといってもらいたくそれを目標に頭を捻っておりました。



流行り言葉ですが“おもてなし”の心でお迎えしたいと思います。最終的にポスター演題登録121題となり、急遽ポスター会場の拡張を図る必要が出てまいりました。我々の苦闘にご支援いただけたとうれしい悲鳴をあげております。もとより私ひとりの力でなんとかなるものではなく、演題を登録いただいた会員の方々、ご来場いただく皆様、プログラム委員、シンポジウムオーガナイザー、講演を快く引き受けていただいた先生方、ランチョンセミナーを引き受けていただいた武田薬品工業、寄付、広告などで協賛いただいた企業、各種学校の方々、準備に携わっていただいたJTB、大学生協の方、学生、教員、事務職員、教室員、の方々などお手伝いいただく全ての方々に御礼申し上げます。

今回、特別講演には慶応大学医学部教授坪田一男先生、武田薬品研究所所長内川治先生、国立精神・神経医療研究センター室長三島和夫先生をお招きしました。坪田先生はブルーボックス“理系のための人生設計ガイド”で皆さんもよくご存じであると思います。今回はブルーライト問題と“人生設計”についてお話させていただきたいと考えています。内川先生は、世界初のメラトニン受容体作動薬ラメルテオン（ロゼレム）の開発に携わった研究者です。その講演は、涙無しには聴けないと噂されております。その山あり谷ありの開発の道程を語っていただく予定です。三島先生は厚労省研究班の委員長をつとめられ先頃「睡眠薬の適正な使用と休業のための診療ガイドライン」をまとめられました。マスコミにて大きく取り上げられ、三島先生のお顔をテレビでご覧になった方も多いかと存じます。特別講演者のキャッチフレーズはそれぞれあふれる情熱、ほとぼしる情熱、さわやかな情熱、でしょうか。また北海道大学名誉教授本間研一先生には故登倉尋実奈良女子大学名誉教授のパイオニアとしてのお仕事とその研究分野をメモリアルレクチャーにてご紹介いただきます。さらに武田薬品工業のご後援をいただきランチョンセミナーを11月9日土曜日に開催いたします。内山真先生に最新の体内時計関連疾患、その治療についてお話させていただきます。座長には内山先生のご友人である近畿大学精神神経科学講座白川治教授を、ゲストとしてお招きしました。

シンポジウムでは、現在の時間生物学の喫緊の問題を取り込むようにしました。また、一部のシンポジストを公募しました。体内時計のパラメータを侵襲無しに測定できないか、生物時計研究の基礎研究をいかに臨床に応用すればよいのか、研究者として独り立ちするためにはどの道をすすめばよいのか、などの懸案についてのシンポジウムもございます。海外より日本人研究者もお招きしています。以前より海外在住の日本人の研究者に日本でその成果を発表していただきたいかと思っておりました。幸いなことに大阪大学中村渉先生、京都府立医科大学八木田和弘先生のご助力を得て米国在住の出雲真理子、山崎晋、小島志保子、下村一宏の諸先生方にシンポジストとして駆けつけていただけることになりました。

また、ポスター発表の時間を延長しました。ディスカッションはもとよりポスター賞審査にも時間をかけていただくことができます。最初の発表時間と最後の発表時間では発表の組み分けが異なります。ご注意ください

い。演題番号の末尾文字ABCDで組み分けを行います。

日曜日の総会はお弁当付きを予定しています。いろいろな学会に出るごとに総会に学会員が出なくなると学会は退潮にあるとの印象を持ちました。よって活気ある総会となるように、ものでつるわけではないですが、(つってますが) 総会に参加いただいた方にはお弁当を提供いたします。総会後に開場下のカフェテリアでお楽しみください。ランチオン、総会弁当はいずれも整理券が必要です。

懇親会では、懸案の近大○×△の提供、薄茶などの提供を予定しております。薄茶は私の年来の友人である松本宗幸師匠にお願いしています。(京都でお茶室を主催されております。) 薄茶の提供は30名ほどに限定されそうです。ご希望の方は整理券をお取りになるのをお忘れなく。懇親会、払った分は必ずもとがとれます。お楽しみください。(○×△は当日のお楽しみ。)

大阪、最近芸人さんだけが元気で、街が寂れたといわれておりますが、なんば辺りや新世界は元気な大阪満載です。若い人はUSJ、海遊館いきはったらよろし(個人的には新世界界限と、道具屋筋が好きです)。上方落語定席の繁昌亭もいいところですよ。NHKドラマ“夫婦善哉”にて紹介された“おださく”が愛したカレーの自由軒本店はなんばです。もちろん、世界遺産満載の土地柄、京都、奈良、和歌山、兵庫などにあります世界遺産お楽しみください。なお、近大マグロ専門店がグランフロント大阪にでき大人気とのこと。お時間がありましたらお寄りください。

30年ほど前、大阪の梅田に劇団四季のキャッツを観に行きました。いまグランフロント大阪のあるあたりに特設劇場あったわけです。で、全く内容覚えてないのですが、とにかく夢中で濃厚な時間を過ごしたという記憶だけが残ったわけです。それ以来これが“良い時間”の基準になっているように思います。なにがあったのかわからないけど、潜在意識に、記憶の深層にすりこまれた学術大会を目指しまして(それでいいのか?) 全力を尽くし、終わった後は青コーナーで白く燃え尽きたいと思う次第です。おそらく例年の大会とは異なりトラブル、ハプニング続きの学会になりそうです。しかし数少ない人員でまわしております。ご容赦ください。教室に所属する学生が皆無であるという私立大医学部基礎講座の悲哀はねのけ、なにか一点でも、ほんの一分でもすごかった、わけわからなかったけどおもしろかった、といわれれば本望でございます。さてどうなりますことやら。